

カトリック瀬戸教会広報



2024年4月号

発行 毎月第一日曜日

〒483-0983 瀬戸市苗場町 66

カトリック瀬戸教会

(0561)82-7340

カトリック瀬戸教会

検索

心の救済 ゼノ・ゼブロフスキー修道士

主任司祭 ニコラス・スワイアテック

1930年4月24日マキシミアノ・マリアコルベは他の2人の修道士 ゼノ・ゼブロフスキー修道士とヒラリウス修道士と共に来日しました。先ず長崎大浦の大聖堂の無原罪聖母像の前で祈りました。これはコルベ神父にとって宣教活動への聖母からの祝福となったのではないのでしょうか。聖母の騎士としてコルベ神父は全世界ができるだけ早く無原罪に捧げられるよう祈りました。聖母は全てをイエスの聖心に捧げて下さいます。コルベ神父は、自分を無原罪に奉献しました。彼にとって全てのことは無原罪が望んでいることでした。彼は自分のために生きることをしませんでした。全てを無原罪に任せていました。彼は日本語を分かりませんでした。来日一か月後に無原罪の取り次ぎによって、「聖母の騎士誌」を1万部出版しました。とても不思議な出来事でしたが無原罪の聖母の働きでした。コルベ神父の修道会は「コンベンツアル聖フランシスコ修道会」です。現在日本における管区には約60名の修道者がいます。コルベ神父は深い信仰と無原罪及び隣人に対する優れた愛を持っていました。わたしたちもそのような愛をもっているなら聖人になることでしょう。しかし、一般的にわたしたちの信仰は薄く、不熱心で愛がありません。聖人になるためには、たびたび悔い改めなければなりません。

コルベ神父の仲間、ゼノ・ゼブロフスキー（1891-1982）は改心者の模範です。ゼノは成人して気苦労のない生活をしていました。自分の家族から離れただけでなく、教会という秘跡からも離れました。金持ちになるためにゼノはいろいろな工夫をしました。お母さんはゼノが家に戻るよう願いましたがゼノは断りました。彼にとって懐か

しいクリスマスが近づいた時に、家族と祝うため郷里を訪れました。義理の姉妹の家に行きました。彼女は「あなたの母親を葬って、共同墓地から帰ってきたところ」と言いました。ゼノは共同墓地に走りまわりました。母親のために土が掘り起こされたのを示す新しい墓を見つけました。彼は悲しんで泣き崩れました。跪いて母の言葉を聞かなかったことの許しを願いました。母の訓戒を思い出しました。「わたしがあなたに教えてあげたことを覚えていなくても、ごミサを大切にしないで！」母の墓前で彼は秘跡に戻ることを約束しました。彼は教会と秘跡に戻りました。日曜日のごミサだけでなく、毎日ごミサに与りました。そしてコンベンツアル聖フランシスコ修道会に入会しました。

ゼノは大工として本河内修道院と赤羽教会を建設しました。また、台風や地震で壊れた家を修復し、建て直すために協力しました。この作業のために電車のパスをいただきました。天皇陛下は人々がゼノを支えるように個人的手紙を書きました。ゼノ修道士は日本語を上手に話しませんでした。心から意志疎通ができませんでした。特に子どもたちには簡単に話しました。彼のカバンには子どもたちのための飴があり、大人のためには自分のことについての新聞記事の切り抜き帳がありました。1999年長編アニメーション映画「ゼノ限りない愛に」が製作されました。母の言葉を忘れ、母の死も知りませんでした。ゼノは立派な修道士、宣教師になりました。いつもフランシスコ会の修道服を着て、聖母マリアのご絵カードを人々に配りました。また、貧しい人々のために食べ物を配給しました。キリスト教教義に基づいた社会奉仕家 北原怜子さんと知り合いました。北原さんから子どもたちはクリスマスとイエス様のことを教わりました。ゼノさんは改心の素晴らしい手本です。わたしたちはどうでしょうか？